

ロータリー米山奨学生報告

1999年 6月

提出期限 1999年 6月 30日

提出月日 1999年 6月 9日

米山奨学生番号: A0862 (必ず書いて下さい)

米山奨学生氏名: 曾芳代 国籍: 台湾

世話クラブ 明石北 米山カウンセラー 下村恵造

健康について

おおむね、良好と言えます。ただ、最近、風邪気味で、学校の保健センターが药をもらって、治療を受けておりました。それ以外の疾病はありません。生活及び研究に支障をきたすことはありません。

学業の進捗 神戸 大学 博士後期課程 2 在学年

専攻分野 マネジメント システム 指導教員名 園林康司

(具体的に本人が記入)

六月末に第二論文「日本企業における労働時間短縮に関する考察—考察一時短を實現させる人事労務管理システムの革新方向を探る—」の提出に向けて頑張っております。第二論文の合格は博士論文提出の最終試験です。私はこの第二論文で、博士論文に必要な研究の枠組みを構築することを試みます。

卒業後の就職あるいは仕事について

もし神戸大学経営学研究科博士課程が無事に卒業できたなら、私は大学に入り、教職につきたいと思っております。

台湾では、兄様まじえの「医者、弁護士と教師には、死後の地獄入り」が決まるといわれています。教師の教育次第で、生徒の一生を左右するから、このような怖ろしいわけで、教師をいましめるわけです。

私はあえて、この「地獄入り」の仕事につきたいと思います。それは、私が今の人生の中に、個人がいて先生に恵まれていたからです。高校の地理先生に、学術世界の面白さと、情熱を教わりました。大学時代の日本語塾の先生たちに、教育の情熱と偉大さを教わりました。3人の先生たちは単純に自分の信念に素直に生きていました。ただけのです。私はそんな先生たちの姿に、胸を強く打ちました。先生たちのおかげで、自分が変わっていたのを実感しました。

教育に携わる人間、偉大さを、私はみました。教育力によって、自分が変えられた。自分もいつか向へ導いてくれた教育者の中に、私は入りたいです。先生たちへの恩返しとして、社会への恩返しとして、今回は自分の出番です。自分に言い聞かせておきます。私は、自分がそうされたように、新しい世代に希望と道を切り拓く道を与えたいのです。

教育とは、研究ということば、己を知るということです。私は最近、あつと気が付きました。己を知らないうちに、他人を教育する資格は剩りだかと思えます。私は、悔しい。この「地獄入り」をしたいのです。いつか、あの世で、私を教えた先生たちと会う時に、胸を張って、「頑張ってきました」の報告ができるように、私はここで、己の試練につとめております。

再び、故郷に帰り、あの先生たちと会える日を期待しつつ。

奨学会に知っておいてもらいたいこと (もしあるなら)

カウンセラーの所見

(奨学生は記入しない)

米山記念奨学生: 曾芳代さんのお世話を開始して未だ1ヶ月程しか経っていませんが、とても勉強熱心と言う事だけでなく、明るく冗談も解かる事、出来る大変素晴らしい学生であると思いました。

また、僅かな期間ですが、私が大変忙しかっている事をちゃんと察して、本報告書提出に向いても、お父さん、カウンセラーの所見と余念谷をもって書いて頂ける様にと、言って約束の日よりも早い6月10日に「わざわざ書留」で送ってくれました。私はこの様に人の事も思いやる素晴らしい米山奨学生とお世話させて頂ける事を本当に嬉しく幸せに思っております。 下村恵造 99/06/10